
紅葉

あと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅葉

【コード】

N66970

【作者名】

あると

【あらすじ】

街の中にも、秋を感じさせるものを見つけました。

肌寒い季節になってきた。

夕方になると強い風が頬を打つようになる。

舞い上がった砂埃に、私は思わず目をふさいだ。

瞼を閉じるのが、少し遅かったみたいだ。細かい埃が目の中に入っていた。

よく、鈍くさいと言われる。反射神経も人より鈍いらしい。自分ではよくわからないのだけれど。

ポケットからハンカチを取りだして、目元を拭った。涙と一緒に埃も取れた。

目をしばたたかせ、秋の街路樹を見上げると、ゆらゆらと紅葉した葉っぱが落ちてくるところだった。

何とはなしに目で追った。葉っぱは風に揺れながら、歩道の上に落ちた。

地面は赤色に染まっていた。

色鮮やかな赤。

隙間なく敷き詰められた赤。

たくさんの人が血を流していた。

「生き残りがいるぞ！」

銀色の服を着た人がこつちを見ていた。赤い斑点が服を汚していた。なんだか怖くて、涙が出た。

ハンカチで目元を拭いた。

ぐしょりと湿っていた。

赤。

目から出ていたのは、血液だった。

ああ、鈍くさい。

鼻や口から血が噴き出した。

みんなと同じように。

「駄目だ。手遅れだ」

「畜生、細菌兵器なんか使いやがって！
どこもかしこも、秋の空だった。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6697o/>

紅葉

2010年11月2日22時46分発行